

【発行】帯広平和委員会

<http://city.hokkai.or.jp/~peaceweb/>

郵便振替口座 02710-3-56581

帯広・十勝版
2004
5月16日

平和新聞

帯広平和委員会会報

帯広平和委員会2004年総会

帯広平和委員会 2004 年総会を5月6日、とかちプラザで開きました。連休明けの日ということもあってか、6名の参加で極めて寂しい総会になってしまいました。

最初に、竹腰代表理事から、日本平和委員会第54回全国大会議案の説明を含めあいさつがありました。

大会議案(平和新聞5月5日付)では、最初にイラク戦争後「世界から孤立するアメリカの戦略と反戦平和世論の新たな発展」そして「アメリカの戦争に参加する国づくりめざす小泉政権と国民の平和への願い」と題して述べられています。

そして、こうした情勢を踏まえ、(1)イラク占領をやめさせ国連中心の復興支援と自衛隊の撤退を(2)有事法制阻止、基地強化反対、日米軍事同盟

の廃棄をめざして(3)憲法改悪反対、憲法9条守り、積極的平和外交を(4)被爆60周年を核兵器廃絶の転機の年に(5)軍事費削減をはじめ平和とくらしを守るたたかひの5点が当面する運動の課題と方針として提起されています。

1人最低10筆の署名を

Abolition Now!!
いま、核兵器の廃絶を
ヒロシマ・ナガサキをくりかえさないために

被爆・戦後60周年をむかえるにあたっては、昨年提起された新署名について、8月の世界大会までに会員一人最低10筆の署名を集めることを提起しています。

また、活動の強化について、全国に広がっている、一人ひとりの平和活動への関心や意欲に積極的に働きかけ、大きな組織を作ること。特に女性の平和へのエネルギーは巨大なものがあり、女性会員を増やすことは、活動をより創造的、活動的、大衆的なものに発展させる上でも重要な課題と位置付けています。

討議では、事務局の準備不足もあり不十分でしたが、事務局体制について、集団的討議して取り組むこと。例会については、他の催しの後に関くなど工夫をすること。また、今年の全国大会への代議員の派遣については、見送ることにしました。



北海道平和委員会

第36回総会のご案内

日時: 5月30日(日)

午前10時から午後3時

場所: かでる2・7

(札幌市中央区北2条西7丁目)

- 午前には弁護士竹中雅史さんによる学習会「有事法制・憲法改悪の情勢、私たちの闘い」が予定されています。
- 帯広からは、自家用車に乗り合わせて参加する予定です(日帰り)。
- 会員の方は、誰でも参加できます。日程に都合のつく方はご連絡ください。
- 前日29日(土)予定の平和学校は都合により中止になりました。

6月例会のご案内

帯広平和委員会の6月例会を下記の日程で開催します。

日時: 6月10日(木)

午後7時より

場所: 千野会館

(音更町木野東通1丁目)

(十勝大橋を土幌方向へ向かいひとつめの信号を右折し100mほどのところ)

議題

- 道平和委員会総会の報告
- 日本平和委員会全国大会
- 北方機動特別演習(?)
- その他

今後の予定

5/18 帯広原水協理事会 19:00 とかちプラザ

5/23 北海道原水協総会(札幌市)

5/30 北海道平和委員会総会(札幌市)

6/5~6

日本平和委員会全国大会(つくば市)

6/5・6・9 行動 13:00 藤丸前

2004年原水爆禁止国民平和大行進 帯広歓迎集会



今月9日に根室の納沙布岬を出発した「2004年原水爆禁止国民平和大行進」根室コースが12日に十勝入りした。帯広では13日午後、市役所や諸団体を訪問し、帯広市長や議長などに要請行動を行った。

夕方、6時から帯広市中央公園で85名が集まり歓迎集会を開いた。

集会では、最初に高岩劭丞帯広原水協理事長が主催者を代表してあいさつ。高岩理事長は、「来年は戦後60年を迎える。今年は例年になく大事な時期ということを念願に一生懸命に行進しよう」とあいさつ。続いて、通し行進者の安中辰雄さん(63)があいさつ。安中さんは「帯広・十勝

は平和運動のさかんな地域と承知しています。」とし、スローガンの中から、「核兵器も戦争もない平和な世界のためにいっしょに歩くこと。イラクでの米英占領、日本の自衛隊がただちに撤退すること。原爆認定訴訟に勝利すること、平和憲法を守ること。」の四点を強調もした。

集会後、帯広市内中心街をデモ行進。参加者は元気よくシュプレヒコールをあげ、「21世紀を核兵器のない希望ある世界に！」と市民に訴えました。

行進終了後、平和委員会メンバーが安中さんを囲んで、市内の「レストラン四季屋」やささやかな交流会をしました。



5月3日にみんなで 日本国憲法を読む会

憲法記念日の3日、「5月3日にみんなで憲法を読む会」(同実行委員会、17回目)が開かれ、市民85人が参加しました。今年の「読む会」は、合唱団エルデの指揮する、きたがわてつの「日本国憲法前文」で始まりました。その後、札幌学院大学の伊藤雅康教授が「平和憲法をめぐる最近の動き=イラク戦争・



有事法制・改憲に抗して」と題して講演しました。

伊藤氏は、「憲法のところは、国民が為政者に守られるもの。一人ひとりが世界でただ一人のかけがえのない人だ」とし、憲法を守るたたかいの今日的な意義とその重要性を訴えました。討論では、自衛隊のイラク派兵や「有事七法案」をめぐる情勢の変化と、それに応じたたたかいの構築の大事さなどについて発言が相次ぎました。

本のご紹介「語り継ぐ民衆史」

本別高校の箕口さんが「語り継ぐ民衆史」という本を自費出版されました。



太平洋戦争で最大の決戦場となったフィリピンのレイテ島の様子を伝えたものです。

詳しくは <http://www.tokachimail.com/honbetsu/040311index.html> をごらんください。